

園長のチョコッとひとこと

平成 18 年 11 月吉日

大慈保育園

園長 高橋 光公

いつも、保育にご理解ご協力ありがとうございます。

アカウンタビリティ（子どもに説明）していますか？

言葉の意味は、（上位の人が説明する）責任、説明責任。最近よく使われるようになってきました。医者への患者へのアカウンタビリティなどがよくいわれます。

一度、ご家庭のアカウンタビリティを見直してみてもいいでしょうか？「子どもに言っても分からない。」「何をどういえばいいの。」「などなど、いざ考えてみると案外難しいことではないでしょうか。



また、コンピューターが基本原理として、人間の脳の原理が使われています。それは、インプット（入力）アウトプット（出力）ということです。

子どもにとってインプット（入力）とは、話を聞くこと・いろいろな活動などなど、生活の中での学び・体験になると思います。

子どもにとってのアウトプット（出力）とは、学びを生活の中に生かしていくこと、例えばセカンドステップで学んだことで、他者に対してやさしくなれることと思います。コンピューターでさえインプット（入力）が無ければ、答えができません。我々はコンピューターができなければ怒ることは少ないです。

しかし、子どもがインプット（入力）体験が無いので分からず黙ってしまえば、怒り出すことって案外多いのではないですか？「なんで、黙っているの。」「ちゃんと、言いなさい。」「子どもは賢いですから、自分が不利になるようなことは言いません。怒っている時間だけが過ぎ、気まずい後味が残る、お互いに好き同士の親子なのに、そんなことってありませんか？

そんな時、アカウンタビリティを思い出してください。説明する時は、「こういう理由で、こうなって、だから困る。」と、子どもに分かる言葉でゆっくりと話してください。

自分自身の子どもの時代を振り返ってください。回りに説明してくれた大人はいましたか？分かるように説明された時は、どんな気持ちでしたか？

親子のふれあい、コミュニケーションって、そんなところから始まるのではないのでしょうか。

園では、いつも子どもに「分からないことは、どんなことでもいいから尋ねたらいいよ。」

「先生がわからないことは、一緒に考えよう。」と、話しています。お家でも、この言葉を使っていたら幸いです。



わからないことは、一緒に考えよう